

第87回 定期演奏会

ワグネル・ソサイエティー・ OBオーケストラ

指揮
寺岡清高

ワーグナー／楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より
第3幕への前奏曲、第1幕への前奏曲

ハンス・ロット／交響曲第1番 (初稿版)

ブルックナー／交響曲第7番 (ノヴァーク版)

2020年2月8日(土) ミューザ川崎シンフォニーホール
13:30開演 (開場13:00) JR川崎駅西口徒歩3分

全席自由 ¥2,000

チケット扱い、ミューザ川崎シンフォニーホール TEL.044-520-0200
お問合せ先 演奏会事務局 TEL.090-1044-4412

WSOホームページ <http://www.wagner-ob.jp>
WSOメールアドレス office@wagner-ob.jp



©木村護



寺岡清高 指揮 Teraoka Kiyotaka

早稲田大学第一文学部卒業。桐朋学園大学を経て、ウィーン国立音楽大学、イタリア・シエナのキジアーナ音楽院で学ぶ。1997年同音楽院より「フランコ・フェラーラ大賞」を授与され、1年間ジャンルイジ・ジェルメッティのアシスタントとしてロンドン・コヴェントガーデン、ミュンヘン・フィル等と同行し研鑽を積む。これまでに指揮を高階正光、カール・エステルライヒャ、ウロシュ・ラーヨヴィッチ、湯浅勇治、カルロ・マリア・ジュリーニ、ヨルマ・パスラ、ネーメ・ヤルヴィの各氏に師事。2000年ミトロプーロス国際指揮者コンクール優勝。以降、ヴェニスフェニーチェ歌劇場管弦楽団、サンクト・ペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団、オランダ放送管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、イギリス室内管弦楽団を始め、イタリアを中心にヨーロッパ各国のオーケストラへ客演。日本では2001年に大阪交響楽団を指揮してデビュー。これまでに札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団等を指揮している。2004年1月大阪交響楽団正指揮者に就任。2011年4月以降は常任指揮として、2019年3月まで足かけ15年間、ウィーン世紀末のロマン派音楽を積極的にとりあげ続け、とりわけ2013年6月の第176回定期演奏会における「オールハンス・ロット プログラム」は大きな反響を呼び、同年の大阪文化祭賞を受賞した。ウィーン在住。

ワグネル・ソサイエティー・OBオーケストラ

“慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラ”の出身者が中心となって1974年に設立、同年冬に第1回演奏会を開催して以来、毎年1〜2回の演奏会を行っている。最近のレパートリーは、ハイドン、ベートーヴェン等の古典から、ブルックナー、マーラー等の後期ロマン派、フランス・アメリカ近現代音楽、ヒンデミット、コダयी等の異色作品まで幅広い。設立当初は長年にわたって慶應義塾ワグネル・ソサイエティー・オーケストラの常任指揮者を務めた東京藝術大学名誉教授、故・中山富士雄氏の薫陶を受けたが、その後は常任指揮者をおかず、演奏会ごとに様々な指揮者の指導のもとに活動をしている。これまで定期演奏会では中山富士雄、團伊玖磨、山本七雄、ロバート・ライカー、朝比奈千足、斎藤純一郎、飯森範親、三原明人、藤崎凡、新田ユリ、飛永信康、新通英洋、鈴木清三、中川賢一、矢崎彦太郎、大塚正昭、川本貢司、田久保裕一、横島勝人、武藤英明、小泉和裕、山田和樹、角田鋼亮、本名徹次、寺岡清高、井崎正浩、松尾葉子、飯守泰次郎、大山平一郎、金洪才、佐伯正則、田部井剛の各氏に指揮をお願いした(初出演年代順)。

定期演奏会の他にも他合唱団体との特別演奏会、(社)日本アマチュアオーケストラ連盟(JAO)の加盟団体として連盟主催行事への有志参加など、意欲的な演奏活動を続けている。

ミュージア川崎 シンフォニーホール

JR川崎駅西口徒歩3分

※就学前のお子様の客席へのご入場はご遠慮いただいております。

